



わたしも  
子育てしたい

妊婦や  
子育て家庭に  
優しいまち



他県から引越してきて、津山市の子育て支援の充実度に驚きました。妊婦検診の無料受診の回数やチャイルドシートへの貸し出し、乳児の無料医療が就学前まであるなど、とても助かります。知りがいい場所での子育てに不安でしたが、親子ひろば「すくすく」や図書館での読み聞かせなどに参加することで友人もでき、楽しく子育てをしています。



▲親子ひろば「すくすく」

これからも妊婦や子育て家庭に優しい津山市でいてください。(川崎・女性)  
子育て支援には、ほかにも育児の相互援助活動を行う津山ファミリー・サポート・センター(アルネ・津山5階)さん・さん)内)があり、保育園の送り迎えや子どもの一時的預かりなど、育児のサポートを行っています。  
今後楽しく子育てができるための支援をしていきたいと考えていますので、子育ての悩み・相談など、お気軽にご相談ください。

問い合わせ先 子育て一般に関する健康増進課 32・2069、親子ひろば「すくすく」も企画課 32・7027、津山ファミリー・サポート・センター 31・8753



# わたしのおすすめ

## 楽しく 激しく アイスホッケー



津山アイスホッケークラブ代表 磯山信和さん(高尾)

津山アイスホッケークラブは、平成15年12月に立ち上げた県北唯一のアイスホッケークラブです。

クラブのモットーは第一にアイスホッケーを楽しむこと。そして、アイスホッケーを通して「人間づくり(礼儀正しく)」「一致協力(チームプレー第一)」「基礎体力づくり」を目標に活動しています。

現在、指導者2人のもと、小・中学生15人、高校生以上15人が練習に励んでいます。練習時間の半分はウォーミングアップと基本練習、残りの時間でミニゲームや保護者に参加してもらっての親子マッチなどを楽しんでいます。練習ばかりではなく、何よりもアイスホッケーを好きになっても

りたいですからね。アイスホッケーは激しいスポーツです。試合になるとすぐに体力を消耗してしまうので、途中で選手の交代を繰り返さなければなりません。そのためにも、小・中学生、高校生以上にそれぞれ20人程度の選手がそろえばいいですね。初心者には道具の貸し出しも行いますので、チャレンジしてみませんか。

### 津山アイスホッケークラブ

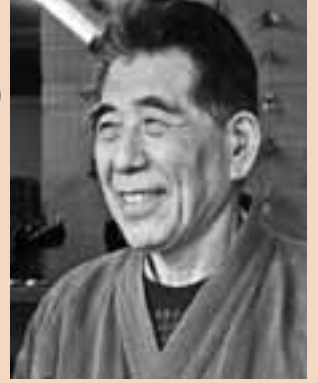
練習日/ところ 冬季=(毎週)水曜日:午後7時30分~9時、土曜日:午後8時~9時、日曜日:午後5時30分~7時/アイスランド津山  
その他の季節=毎月1回/岡山国際スケートリンク  
問い合わせ先 磯山さん 090-5267-3398



# 未来をひびかる 津山人

## 伝統を大切にするまちに

バンブークラフトアーティスト 白石 靖さん(田町)



昭和60年の年賀郵便切手にも使用された竹細工の作州牛。その作州牛を作る白石靖さんに、津山の伝統民芸品である竹細工についてお話を伺いました。

作州牛を生み出したのは?

16歳の時に父親を助けようと思い、家業の竹細工の見習いを始めました。約3年の修行を経て父親と一緒に試行錯誤しながら考案したのが作州牛です。昭和32年のことで、昭和37年に開催された岡山国体や東京オリンピック、大阪万博を通して全国の人に知ってもらうことができました。

ました。作州牛の魅力は、頭と体がちよっとアンバランスなほのほのとしたところではないでしょうか。デザインは変えず、流行に合わせてバランスを変えてスマートにするなどの工夫も凝らしてきました。

そして今では津山の代表的な民芸品として定着し、ユニークな郷土玩具と言われるようになりました。50年以上作り続けてきた結果だと思えますし、みんなが盛り立ててくれたおかげだと思います。津山の竹細工の歴史は? 明治維新から大正時代に掛けて全国各地で産業興しが行われ、津山でも製糸や番傘、竹細工などの産業が盛んになりました。その中で竹細工は、昭和初期から終戦に掛けて大分と肩を並べるほどの産地になり、約20社が竹細工を製造するまでに発展



の城東地区に津山の伝統民芸品を展示する場があればいいですね。来年には城東地区に新津山洋学資料館が完成しますし、近くにも展示できる場があれば観光面でも相乗効果生まれていいのではないのでしょうか。伝統的な祭りや物を大切にしているまちにこそ「にぎやかさ」が生まれます。津山も伝統を受け継ぎ、伝統的なものを残し伝えていくまちになってほしいですね。

白石さんを惹き付ける竹細工を始めとする津山の民芸品。そのすばらしさを多くの人に感じてもらいたいですね。



城東地区は、かつて高瀬舟の船着場があったことから人の往来や物作りの中心地でした。その

しました。津山の竹細工の特徴は、大分の竹細工のように竹を編むのではなく、竹を切ったものに穴を開けてつなぎ合わせて作られます。最盛期には日本の竹製の蛇や機関銃のおもちゃの8割が津山で作られていたんです。また、昭和6年の小学校の郷土副読本には津山の産業として①製糸②チェーン製造③竹細工が挙げられており、竹細工は津山の重要な産業に位置付けられるまでになったのです。そういった終戦までの津山の竹細工の伝統があったからこそ、作州牛も生み出すことができたのだと思っています。今後の夢は?

昔の竹細工を少しずつ集めています。ほかにも津山には竹製の魚籠や釣竿、柳行李、雲斎織り、陶器など、多くの伝統民芸品がありました。そういった物がだんだんと壊れたり捨てられたりして失われつつあります。今ならまだ間に合うので、津山の伝統ある民芸品を後世に継承していく活動をしていきたいですね。